

### 3 . 漫湖水鳥・湿地センター

#### 3.1 視察日時・場所

(1)日時

平成17年1月26日（水） 9:30～12:00

(2)視察場所

漫湖水鳥・湿地センター、漫湖干潟、漫湖公園

#### 3.2 施設概要

(1)所在地

沖縄県那覇市・豊見城市



施設外観と周辺状況



施設の位置

(2)施設目的

漫湖水鳥・湿地センターは、ラムサール条約登録湿地である漫湖の水鳥をはじめとする野生生物の保護と湿地の保全、賢明な利用について理解を深めていくための普及啓発活動や調査研究、観察などを行う拠点施設として、さらには地域住民が自然に親しみ学ぶ場として、また各種団体の保全活動、環境調査を支援する場として、環境省が設置したものである。

(3)整備年月

平成15年（2003年）5月開設

(4)施設整備状況

面積：敷地（5,098.95㎡） 建築面積（543.96㎡） 延べ面積（749.97㎡）

建築物：漫湖水鳥・湿地センター（RC造、2階建）

1階：エントランスホール、展示室、事務室、多目的ルーム、トイレ、シャワー室、湯沸かし室等

2階：観察展望コーナー、図書コーナー、レクチャールーム、トイレ、沖縄南部自然保護官事務所

(5)管理運営

沖縄県、那覇市、豊見城市、環境省沖縄奄美地区自然保護事務所の4機関で構成する。「漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会」において、管理運営を行う。

### 3.3 視察結果

#### (1)施設内容及び運営管理について

##### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・展望室、タッチパネル、ジオラマなど観たり触れたりしながら、様々な形で観察・学習できるよう企画・運営されている。
- ・施設内容は利用者がアクションできるような教材を取り入れている（バーコード付き図鑑で生態情報を見ながら、鳥の鳴き声を聞く教材を新しく取り入れた）。



観察展望室



検索タッチパネル



自然のジオラマ



図書コーナー



水鳥情報マップ



鳴き声図鑑

- ・遠隔操作の超望遠ビデオカメラがあり、施設内で身障者やお年寄りが臨場感あるリアルタイム映像を楽しむことができる。
- ・屋外に設置してある超望遠ビデオカメラは1箇所であり、とよみ大橋と爬龍橋のたもとにある。センター内での取り扱いは職員のみにより操作が可能である（来館者に利用させると壊したり、別の目的で人の行動などを観察するため）。
- ・超望遠ビデオカメラは画像だけで音声の装置はついてない（録画や制止画像も可能）。



遠隔操作の超望遠ビデオカメラ（66倍）



100インチの大型画面で実物大の水鳥を生中継でセンター内で観察

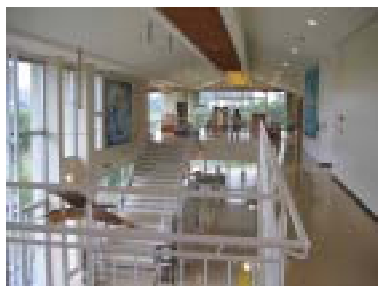


干潟や野鳥の映像を楽しむお年寄り

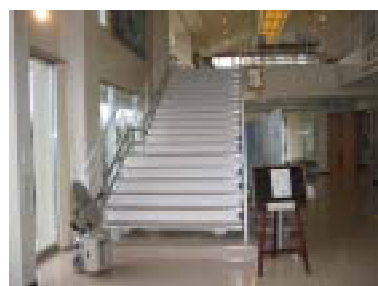
- ・センターは4者（環境省、沖縄県、那覇市、豊見城市）で管理しており、県150万、豊見城市55万、那覇市50万の配分で運営している。
- ・企画展示コーナーは、絵画展・写真展など各種企画に活用できる。
- ・環境に配慮し、エアコンは設置されておらず、夏場は窓を開けている。
- ・施設内は階段など身障者へ配慮されている。また、駐車場は身障者用スペースが設けられ、施設内までバリアフリーとなっている。



企画展示コーナー



施設内の状況



階段は身障者へ配慮

#### 【問題・課題】

- ・遠隔操作の超望遠ビデオカメラ（とよみ大橋のたもとの護岸に設置）は高額であり、また台風時はレンズが汚れたり故障したりするため管理が大変である。
- ・センターにはエアコンが設置されておらず、夏場は窓を開けており、窓には柵が設置されていなかったため子供が転落事故を起こした事がある。施設を建設する際、利用者の年齢層や利用形態等への配慮が足りなかったと思われる。
- ・野外観察では、施設からの移動の際に歩道が無く危険であり安全面で問題がある。また、木道などにより湿地内まで観察できるような施設を要望しているが、これらの要請については現時点では具体的な進展はない。
- ・センター建設の際の調査計画書には、湿地内への木道の設置など干潟を直接観察できるような内容が盛り込まれている。施設導入に向け取り組んでいきたい。
- ・管理運営主体が多いため（4者）、各機関の役割や担当が不明確（施設内容等について要請や相談をする際など、案件毎の窓口が明確でない）。
- ・本センター以外に、先進地事例として千葉県谷津干潟は参考になる（施設内容や管理状況などが参考になる）。
- ・施設内容の充実に対する要望を関係機関に行っている。

## (2)施設の利用状況

### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・センター利用者は、平成16年(2004年)は3万人を越え、多くの方に利用されている。
- ・センター利用の際、最初に行っているのがオリエンテーションであり、安全面について説明する。その他、トイレの場所やセンター内が禁煙であること、飲食禁止であることなど、センター利用の際の基本的な利用の仕方について説明する(適切な利用の仕方を説明)。
- ・施設運営を行っていく中では、センター案内だけではなく、年輩の方などの利用者から逆に学ぶことも多い。それを踏まえて日々の施設運営の向上に努めている(来館者とともに施設を作り上げている)。
- ・最近では総合学習の場としての利用者が多く、高校生、中学生の利用も多くなっている(中学生の団体190名のケースもある)。
- ・施設利用が無料だからといって何をしてもいいと勘違いする人がいるため、注意するなど常に厳しく管理している。
- ・観察コースを設け、周辺の自然(漫湖干潟)や施設(漫湖公園、とよみ大橋)と一体となった活用を行っている。



### (3) 漫湖干潟及びマングローブの状況

#### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・ 漫湖内に生育するマングローブは主にメヒルギで占められており、その次にヤエヤマヒルギが生育する。オヒルギの生育は少ない。
- ・ 漫湖公園護岸沿いに帯状に繁茂するマングローブは約10年ほど前「マングローブの会」(現在は活動していない)が移植したと聞いている。



漫湖干潟 (左はとよみ大橋)

#### 【問題・課題】

- ・ 地域からのセンターに寄せられる苦情は、マングローブの繁茂により漫湖公園側から対岸側が見えない、圧迫感があるなどがあるが、センターではマングローブの管理を含み干潟の管理面に直接関わることできない(ヒルギ類の繁茂や野犬への対応等)。
- ・ ゴミ対策や安全面への提案等を関係機関に対して行っている。



とよみ大橋南側に広がるマングローブ

### (4) 環境保全活動の状況 (環境教育、清掃活動、等)

#### 【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・ 講座、指導者養成などが催され、また清掃活動等の環境保全活動を実施している。
- ・ WWFの環境教育プログラムの中で、「湿地学習コーディネーター養成講座(2003年12月実施)」を当センターで開催した(現時点ではその後の動きはない)。
- ・ 漫湖自然環境保全連絡協議会及び那覇市との共催で清掃活動を実施している。
- ・ 干潟の現状を目の当たりにして子供達がゴミを拾いたいといってくる。ゴミ拾いをするうちに、干潟に生息する生物を見つけて、さらに漫湖の干潟に関心をもっていくことにも繋げていける。
- ・ ゴミ拾いやゴミ箱の設置もいいが、その前にゴミを捨てさせないことが大事であることを教えている。



レクチャールーム



清掃活動

#### 【問題・課題】

- ・ 清掃活動の際のゴミ処理に経費がかかり、また、引取先で苦慮している。収集したゴミの処理のため那覇市にもっていくとゴミの持ち込みが多すぎるといわれる。また、役所ではゴミの場所も詳しく聞かれ、那覇市と豊見城市の位置関係を確認される。

(5)漫湖内の野鳥生息状況、生物調査等の実施状況

【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・野鳥を観察してみると漫湖だけではなく、周辺の色々なところが繋がり、山、川、海が一带となっているのを感じる(潮汐の時間帯で知念村からサギが飛来してくる)。
- ・漫湖内に生息する野鳥は年間約67～70種類(日当たり約12～13種類)を確認している。
- ・植生調査は行っていない。

【問題・課題】

- ・漫湖内でみられるカワセミは、漫湖とは別の所で繁殖し、採餌目的で移動してくると思われるため、漫湖の近くにも土手を作って繁殖場を設置した方がいい。
- ・超望遠カメラにより、マングースや野犬の干潟への侵入を確認している。野鳥等への被害状況は不明であるが、センターでは野犬の侵入防止対策等の対応はできない。

(6)センター周辺(観察コース、漫湖公園、とよみ大橋)の状況について

【環境及び利用への工夫・配慮】

- ・センター周辺の施設(漫湖公園、とよみ大橋)を活用し、漫湖干潟の観察コースとして設定している。
- ・とよみ大橋には鳥類パネルが設置されている。
- ・那覇市建設港湾部では漫湖公園の管理を行っており、木の種類、花の開花などを管理・記録している。
- ・護岸側の植栽は、NPO法人(沖縄環境クラブ)が県から許可をもらってサガリバナ等を植栽している。
- ・公園内の植物は、以前はガジュマル、デイゴ等の樹木が多かったが、花のなる植物に切り替えている(実のなる木は管理しにくいので植栽していない)。
- ・漫湖公園の延長1.5km内にトイレが5箇所設置。
- ・異常潮位の際には公園沿いの道が低くなっているため冠水することがある(公園内は冠水しない)。
- ・以前は公園内に低木が多く死角ができ酒を飲む人など不適切な利用者も多かったが、現在は低木を減らしているのでそのような状況はみられない。



とよみ大橋の野鳥パネル



漫湖公園(左側は漫湖)

【問題・課題】

- ・爬龍橋から上流の右岸側のマングローブが繁茂し、伐採の要請があったが、那覇市が管理者ではないので対応できない。

(7)視察参加者の感想等

- ・センターの方から説明があった運営上の問題点の部分(やりたいことがなかなかできない)や、利用者への対応を参考に計画の段階から施設整備を検討した方がよい。
- ・施設ができたのは良いが維持管理の面で色々問題があると感じた。
- ・今回の視察も参考に年代に応じた施設内容となるよう充実を図って欲しい。
- ・比屋根湿地と比べて異質のような雰囲気だった。
- ・周辺と一体化した形で施設利用の仕方を考えていかなければならない。
- ・沖縄本島の南部と北部、あと八重山にもセンターのような施設があり、中部にもぜひこのような施設がほしいと感じた。